

Hello! FUJISEI

No. 154

総務省統計局の「人口推計（平成24年10月1日現在）」によると、わが国の総人口は1億2751万5千人で、1年間に28万4千人（0.22%）の大幅減少となっています。

わが国の人口ピラミッドをみると、第1次ベビーブーム期生まれが65歳になって老年人口（65歳以上）に含まれ、出生児数が第2次ベビーブーム期をピークとして減少傾向が続いていることを反映し、二つのベビーブーム期の人口が膨らんだひょうたん型になっています。

年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）は1654万7千人で前年に比べ15万8千人の減少、生産年齢人口（15～64歳）は8017万5千人で116万7千人の減少となったのに対し、老年人口（65歳以上）は3079万3千人で104万1千人の増加となり、初めて3000万人を超えました。なお、75歳以上人口は1519万3千人で48万5千人増加しています。

総人口に占める割合は、年少人口13.0%、生産年齢人口62.9%、老年人口24.1%で、前年に比べ、年少人口、生産年齢人口がそれぞれ0.1ポイント、0.7

わが国の年齢別人口

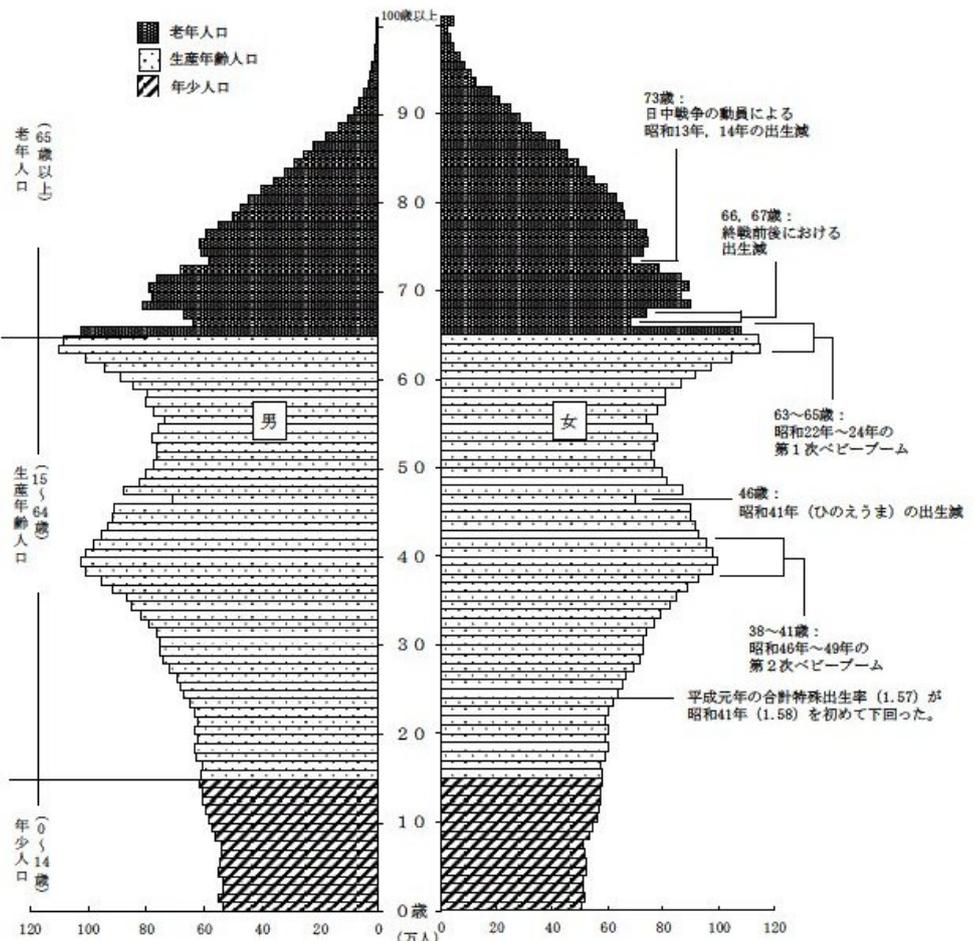
老年人口が初めて3000万人超える

ポイント低下し、老年人口が0.8ポイント上昇しています。75歳以上人口は11.9%で0.4ポイント上昇でした。

総人口に占める割合の推移をみると、年少人口は、昭和50年（24.3%）以降一貫して低下を続け、平成24年（13.0%）は過去最低となりました。

生産年齢人口は、昭和57年（67.5%）以降上昇していましたが、平成4年（69.8%）にピークとなり、その後は低下を続けています。一方、老年人口は、昭和25年（4.9%）以降一貫して上昇が続いており、平成24年（24.1%）は過去最高となっています。

わが国の人口ピラミッド（平成24年10月1日現在）



総務省統計局「人口推計（平成24年10月1日現在）」